

貸借対照表

2024年12月31日現在

クラレクラフレックス株式会社
(単位:円)

科 目	金 額	科 目	金 額
【資産の部】		【負債の部】	
I. 流動資産	4,276,645,836	I. 流動負債	953,612,661
現金及び預金	113,551,944	買掛金	594,536,623
電子記録債権	14,930,740	リース債務	1,771,440
売掛金	1,752,098,644	未払金	204,178,378
製品	1,008,047,358	未払法人税等	587,500
原材料	88,273,576	未払費用	39,359,486
仕掛品	168,358,943	未払事業所税	9,166,400
貯蔵品	90,187,951	賞与引当金	65,000,000
未収入金	53,794,780	預り金	345,127
未収還付消費税	36,407,282	有償支給取引に係る負債	22,056,145
預け金	948,763,190	その他流動負債	16,611,562
その他流動資産	4,931,428		
貸倒引当金	△ 2,700,000	II. 固定負債	55,923,800
		リース債務	415,800
		退職給付引当金	55,508,000
		負債の部合計	1,009,536,461
II. 固定資産	2,781,875	【純資産の部】	
1. 有形固定資産	1	I. 株主資本	3,269,949,964
機械装置	1	1. 資本金	100,000,000
		2. 利益剰余金	3,169,949,964
		(1)利益準備金	25,000,000
2. 投資その他の資産	2,781,874	(2)その他利益剰余金	3,144,949,964
長期前払費用	2,781,874	繰越利益剰余金	3,144,949,964
		(うち当期純損失)	△ 648,468,604
		II. 評価・換算差額等	△ 58,714
		1. 繰延ヘッジ損益	△ 58,714
		純資産の部合計	3,269,891,250
資産の部合計	4,279,427,711	負債の部及び純資産の部合計	4,279,427,711

個 別 注 記 表

クラレクラフレックス株式会社

【重要な会計方針に係る事項に関する注記】

1. デリバティブの評価基準及び評価方法
時価法
2. たな卸資産の評価基準及び評価方法
製品・仕掛品・原材料…… 先入先出法による原価法（貸借対照表価額は収益性の低下に基づく簿価切下げの方法）
貯蔵品 …………… 移動平均法による原価法（貸借対照表価額は収益性の低下に基づく簿価切下げの方法）
ただし、生産管理及び原価管理上重要性に乏しい為、基幹情報処理システムによる品目別管理を行っていないものについては最終仕入原価法（貸借対照表価額は収益性の低下に基づく簿価切下げの方法）
3. 固定資産の減価償却の方法
法人税法に規定する方法と同一の基準によっている。
(1)有形固定資産（リース資産を除く）
定額法

(2)リース資産
所有権移転外ファイナンスリース取引に係る資産 ……………リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法
4. 引当金の計上基準
(1)貸倒引当金
債権の貸倒れによる損失に備えるため、一般債権については貸倒実績率により、貸倒懸念債権等については個別に回収可能性を検討し、回収不能見込額を計上している。
(2)賞与引当金
従業員に対して支給する賞与の支出に充てるため、賞与支給見込額のうち当事業年度負担分を計上している。
(3)退職給付引当金
従業員の退職給付に備えるため、当期末における退職給付債務の見込額に基づき計上している。
5. 収益及び費用の計上基準
当社は、主として商品及び製品の顧客への販売を行っている。
これら商品及び製品の販売については、引渡時点において顧客が当該商品及び製品に対する支配を獲得し、履行義務が充足されると判断し、当該時点で収益を認識している。
尚、取引の対価は、履行義務を充足してから主として1年以内に受領しているため、重要な金融要素は含んでいない。
6. ヘッジ会計の方法
①ヘッジ会計の方法
外貨建予定取引に係る為替予約は、繰延ヘッジ処理によっている。
②ヘッジ手段とヘッジ対象

ヘッジ手段	ヘッジ対象
為替予約	外貨建予定取引

③ヘッジ方針
当社は社内規定に定めた管理方針、主管部署、利用目的、実施基準に基づき、為替変動リスクをヘッジしている。
④ヘッジ有効性評価の方法
外貨建予定取引に係る為替予約に関しては、重要な条件の同一性を確認し、有効性を評価している。
7. 消費税等の会計処理
消費税及び地方消費税の会計処理は、税抜方式によっている。

以上